

外国語教育メディア学会(LET)
第61回(2022年度)全国研究大会
The Japan Association for Language Education & Technology
The 61st Annual Conference



外国語教育の周辺技術と今後の可能性
Adjacent Technologies and Their Future Possibilities
for Foreign Language Education

- 主 催: 外国語教育メディア学会(LET)
The Japan Association for Language Education & Technology (LET)
- 後 援: 文部科学省
- 会 期: 2022年8月9日(火)～11日(木)
August 9-11, 2022
- 会 場: オンライン
Online

学会長挨拶



外国語教育メディア学会会長
森田 彰(早稲田大学)

世界的には終息の兆しが見えたかに思えますが、新型コロナウイルス感染症の災禍に遭われた全世界の人々に、改めてお見舞いを申し上げます。また、過酷な国際情勢の中、苦境に直面する多くの方々にも心よりの共感と連帯の意を表したく思います。さらに、刻々と変化する状況の中、教育・研究に邁進されている会員の皆さんにも敬意を表したいと思います。

さて、2022年度の全国研究大会 LET 61 もオンラインでの開催となりました。しかしながら、今大会では、前回 LET 60 での貴重な経験を踏まえ、ホスト支部の関西支部、そして全国研究大会実行委員会の皆さんが、conference としての在り方をさらに進化させ、より LET らしい充実した研究大会となるよう、工夫を重ねてくださいました。誠に有難いことです。

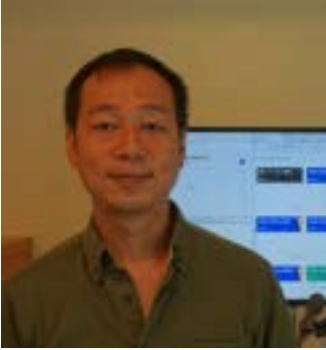
大会テーマである「外国語教育の周辺技術と今後の可能性」は、こうした時期にまさに適切なものである、と言えるでしょう。コロナ禍の中やポスト・コロナの教育・学習環境におけるそれだけでなく、これまで LET が研究を続けてきた外国語教育の周辺技術の現在についても、ここで知見を共有することは、極めて重要なことです。

関西支部の皆さん、そして LET 61 実行委員会、さらには各支部事務局、各種委員会の皆さんを始めとして、全国研究大会実施に関してご尽力くださったすべての皆さんに改めて感謝いたします。また、様々な面で学会活動を支えてくださっている賛助会員の皆さんにも御礼申し上げます。

毎回お願いになりますが、研究大会の成功は、会員の皆さんの積極的な大会への参加があって初めて得られるものです。今年も、多くの皆さんと大会でお会いできますよう！

On behalf of all the LET members, I am pleased to inform you that we are going to hold the 61st Annual Conference, which is to be held online due to the continued difficult circumstances caused by COVID-19. Additionally, I would like to extend my deepest thanks to the Annual Conference Steering Committee members for their conscientious and relentless efforts, without which it would not have been possible for the conference to be held. I would also like to invite to the conference as many teachers, students, researchers, and staff as possible, as well as all who are interested in foreign language education and the current technological developments of educational devices and systems. In any case, let us enjoy the conference and share information and views regarding various aspects of language education and technology!

ご挨拶



LET 第 61 回全国研究大会大会実行委員長
菅井 康祐(近畿大学)
大会会長・関西支部長
名部井 敏代(関西大学)



皆さま、外国語教育メディア学会(LET)第 61 回全国研究大会にご登録・ご参加いただきありがとうございます。昨年度の LET60 につづき、今回もオンラインでの開催となりましたが、オンラインならではの機動力の高さを活かした良い研究大会にできるよう実行委員一同準備を進めております。

今回は「外国語教育の周辺技術と今後の可能性」という大会テーマを設定しました。現在急激に発達している AI・機械翻訳・自動採点・VR などの技術の最先端の研究成果を共有する機会を持つとともに、今後それらの技術がどのように外国語教育を支え変えていくのか、また、われわれ、外国語教育に携わる人間がどのような心構えを持つと良いのかということを具体的にイメージし創造力を高める機会になればと考えています。

研究発表・実践報告においては、従来の基礎研究・教室実践の報告はもちろん、オンラインでの授業実践、ツールの活用などの報告も多く予定されています。コロナ禍において、さまざまな形態のオンライン授業を教員・学生・生徒みなが経験し、その重要性が認識されるようになりました(個人的にもようやく同僚に LMS の価値に気づいてもらえました)。こういったなか、実際に教壇に立たれている先生がたのお話を伺える機会はとても貴重ですし、なによりも語学ラボラトリー学会(Language Laboratory Association of Japan)として発足した本学会の力の見せ所ではないかと感じています。

オンラインではありますが、当日、皆さまのお目にかかれるのを実行委員会一同心待ちにしております。最後になりますが、学会をいつも支えてくださっている賛助会員・一般会員・学生会員の皆様、そして、今回の準備にあたり昨年度のノウハウを丁寧にご教示いただいた植田正暢先生をはじめとする九州・沖縄支部の LET60 実行委員の先生方に心より御礼を述べさせていただきます、我々からの挨拶と変えさせていただきます。

目次	Contents	Page
大会スケジュール	Overall Schedule	5
基調講演 1	Keynote Speech 1	9
基調講演 2	Keynote Speech 2	9
全体シンポジウム	Plenary Symposium	10
研究発表・実践報告	Oral Presentations	11
第1日 (8月9日) ワークショップ	Day 1 (Aug. 9th) Workshops	15
第2日 (8月10日) スケジュール	Day 2 (Aug. 10th) Schedule	15
第3日 (8月11日) スケジュール	Day 3 (Aug. 11th) Schedule	15
ワークショップ(8月9日)	Workshops (Aug. 9th)	16
出展賛助会員一覧	List of Exhibitors	19
大会事務局からのお知らせ	Information about LET 2022 Conference	20
大会実行委員会組織	Conference Organizing Committee	22

大会スケジュール

8月9日(火) Tuesday, August 9	
ワークショップ(Workshop)	
8月10日(水) Wednesday, August 10	
研究発表・実践報告	
基調講演 1(Keynote Speech 1): 激変する世界と英語教育 トム・ガリー / Tom Gally(東京大学大学院総合文化研究科)	
8月11日(木) Thursday, August 11	
基調講演 2(Keynote Speech 2): 記号創発口ボティクスとマルチモーダル感覚情報に基づく言語獲得 ～実世界人工知能に学ぶ言葉の意味の構成的理解～ 谷口 忠大(立命館大学情報理工学部)	
研究発表・実践報告	
全体シンポジウム(Plenary Symposium)	
外国語教育の周辺技術と今後の可能性	
トピック 1:機械翻訳 山田 優(立教大学)	
トピック 2:自動採点 近藤 悠介(早稲田大学) 石井 雄隆(千葉大学・理化学研究所)	
トピック 3:VR 矢野 浩二郎(大阪工業大学)	
ラップアップ 谷口 忠大(立命館大学)	
ブレイクアウトセッション(トピックごとに分かれ登壇者との自由なディスカッション)	

8月9日(火) August 9th (ワークショップ・Workshop)

	A 室	B 室	oVoice
09:00	バイズ統計超入門	Handwriting としての英語の文字指導のあり方	出展事業者による展示
11:00			
11:30			
12:00			
12:00	教材テキストの「精読」で組み立てる英語授業	英文音読における、イントネーションの基本的選択肢	出展事業者による展示
13:30			
14:00			
14:30			
14:30	探究時代の語学教育—電語研が見据える新たな 4 技能とは—	タスクのマイクロ評価から考える実践研究	
16:00			
16:30			

8月10日(水) August 10th

10:00 10:20	開会行事 Opening Ceremony (Zoom 1)			
	Zoom 1	Zoom 2	Zoom 3	Zoom 4
10:20 10:50	効果的で楽しい語彙学習方法を考える方略トレーニングの実践	メタバースを利用した外国語学習	学習者音声に対する音素・単語を単位とした明瞭度自動予測～シャドーイングを用いた評価者の聞き淀みの計測とモデル化～	全国学力・学習状況調査の出題英文における文法項目の出現頻度：中学校学習指導要領「文、文構造及び文法事項」を視座に
10:50 11:00	出展事業者による展示、移動・休憩			
11:00 11:30	辞書検索行動の質的分析 2：英語力との関係	Teaching in the Metaverse: A Preliminary Study on Educators' Perspectives	シャドーイングと音声認識アプリを用いた可視化が日本人大学生の発音の理解のしやすさに与える影響	オンライン授業による明示的文法指導の英語動詞習得における効果
11:30 11:40	出展事業者による展示、移動・休憩			
11:40 12:10	読解、語彙知識、統語的知識、聴解の関係	バーチャル空間における直接法の発展—中国語教育を事例として—	シャドーイング練習の位置づけの違いが英語学習者発話のモデル音声への近さに与える影響	機械翻訳を援用した和文生成の学びに関する調査—英文生成能力の向上を志向して—
12:10 13:10	出展事業者による展示、移動・休憩			
13:10 13:40	Effects of Automated Feedback on Student Acquisition of Different Types of Vocabulary	Comparative Study of ZOOM and VR Lessons in Language Education	TOEIC® 公式eラーニング 基礎編 Listening & Reading の開発と学習効果	英語母音表記の多様性
13:40 13:50	出展事業者による展示、移動・休憩			

	Zoom 1	Zoom 2	Zoom 3	Zoom 4
13:50	Argumentative Signal Words as a Potential Predictor of Human Rating	同期型オンライン国際協働型学習(COIL)の実践—二週連続の米国二大学との交流—	サブスクリプション・サービスを用いた英語授業の可能性—Disney+のザ・シンプソンズを教材にして—	自治体独自の外国語教育カリキュラム政策:構造改革特区を事例として
14:20	出展事業者による展示、移動・休憩			
14:30	海外メディアの動画から深める4技能の統合的学習レベル別・教養英語コースブックの紹介	遠隔と対面ではどちらの英語授業タイプを大学生は好むのか? 質問紙による学生の意識調査をもとにした調査研究	Laying the Foundation in a STEM Department: A Proposed Framework for English Presentations	英語ライティング授業における協調学習
15:00	出展事業者による展示、移動・休憩			
15:10	基調講演 1 Keynote Speech 1 (Zoom 1) 激変する世界と英語教育 トム・ガリー / Tom Gally(東京大学大学院総合文化研究科)			
16:00				

8月11日(木) August 11th

10:00	基調講演 2 Keynote Speech 2 (Zoom 1) 記号創発ロボティクスとマルチモーダル感覚情報に基づく言語獲得 ～実世界人工知能に学ぶ言葉の意味の構成的理解～ 谷口 忠大(立命館大学情報理工学部)			
10:50	出展事業者による展示、移動・休憩			
11:00	Zoom 1	Zoom 2	Zoom 3	Zoom 4
11:00	Chatbot Usability for Conversation Practice in EFL Classroom	専門性が高まる薬学部のオンライン留学プログラムにおける教員のオンライン引率の実践	Japanese University Students' Change in English Learning Motivation Over Four Years	プランニングとトピック・タイプが日本人英語学習者のオンライン実験におけるスピーキング・パフォーマンスに与える影響について
10:30				

11:30 11:40	出展事業者による展示、移動・休憩			
	Zoom 1	Zoom 2	Zoom 3	Zoom 4
11:40 12:10	The Role of Explicit Knowledge and Cognitive Styles in L2 General Proficiency	通常授業における COIL の実践方法、および国際協働学習による日本人学習者の学びに関する考察と示唆	日本語版 L2 Grit 尺度の改訂および質問紙調査：英語力との関係から	小中接続をめざした「話すこと [発表]」における児童の姿 —教科書を発展させた協働学習による英語パフォーマンス課題の取組から—
12:10 13:10	出展事業者による展示、移動・休憩			
13:10 13:15	シンポジウム趣旨説明 (Zoom 1)			
13:15 16:30	全体シンポジウム Plenary Symposium (Zoom 1) 外国語教育の周辺技術と今後の可能性 トピック 1: 機械翻訳 山田 優(立教大学) トピック 2: 自動採点 近藤 悠介(早稲田大学) 石井 雄隆(千葉大学・理化学研究所) トピック 3: VR 矢野 浩二郎(大阪工業大学) ラップアップ 谷口 忠大(立命館大学) ブレイクアウトセッション(トピックごとに分かれ登壇者との自由なディスカッション)			
16:30 16:40	閉会行事 Closing Ceremony (Zoom 1)			

基調講演 1 Keynote Speech 1

8月10日 15:10-16:00

激変する世界と英語教育

トム・ガリー / Tom Gally(東京大学大学院総合文化研究科)

日本ではすべての子供に英語を教える理由として「グローバル化の急速な進展」がよく挙げられてきた。確かに、第2次世界大戦以降、人、モノ、情報などの国際的交流が活発になり、国境の意味が薄れた。そのため、国際語になりつつあった英語を「グローバル言語」として学ぶ意義があった。

しかし、2016年ごろ以降、英国の欧州連合離脱、米国におけるトランプ政権の誕生、中国におけるインターネット検閲の強化、コロナ下の国際移動制限、ウクライナ戦争の勃発とロシアへの厳しい制裁などで、グローバル化が「進展」しているとは言えなくなった。

同時に、言語の利用場面も変化している。従来、多くの人は日常的に、同じ場所、同じ地域、同じ国にいる人とコミュニケーションしてきたので、言語は特定の国や地域に根付くものとみなされてきた。しかし、主にオンラインで活動する人が増えたことにより、場所に依存しないコミュニケーションも増えている。SNS、オンラインゲーム、普及し始めたメタバースなどで使われる言語は、当分の間は従来の言語に基づくが、速いペースでそれぞれのオンラインコミュニティに特化した言語に発展すると予想される。

そして、機械翻訳や言語モデルの進歩で示されたように、コンピューターがある程度人間のように言語を扱えるようになった。これからはさらに人間らしくなるだろう。我々人間にとっては外国語の学習は依然として難しいので、外国語の運用はAIに任せればよいと考える人が増えている。

この言語環境の激変に、日本の英語教育がどのように対応すべきかについての簡単な解答はないが、対応の方法については真剣に考えなければならない。この講演で皆さんと一緒に考え始めたいと思う。

基調講演 2 Keynote Speech 2

8月11日 10:00-10:50

記号創発ロボティクスとマルチモーダル感覚情報に基づく言語獲得

～実世界人工知能に学ぶ言葉の意味の構成的理解～

谷口 忠大(立命館大学情報理工学部)

人工知能技術の発展はその「道具」としての使用のみが私たち人間の言語学習に変容を与えるのではない。私たちの言語が持つ意味とは何なのか、言語の学習がどのように進むのか、言語とはいかなるものであるのかということに関しても新たな視点を提供してくれる。講演者は実世界の感覚運動情報に基づき、発達的に学習し、概念や語彙を獲得する人工知能を構成することで、人間の知能の構成に迫る記号創発ロボティクスという分野を開拓し、牽引してきた[1,2]。知能を人工的に構成することによって、自然の知能(人間

の知能)を理解しようというアプローチは構成論的アプローチと呼ばれるが、記号創発ロボティクスは人間の認知を、もしくは心を理解するための研究としても位置づけられる[3,4]。旧来の言語学は統語論をその中心に置きすぎることによって、実世界適応のために進化してきた言語という側面を軽視してきたように思われる。ロボティクスと言語学の交差点は、実世界の中での「言葉の意味」を学術活動の中で新たに定位することを可能にする[5,6]。本講演では記号創発ロボティクスについて概説し、及び、その背景に存在する、言語の「意味」を理解するためのシステム論である記号創発システムに言及しつつ、一部、現在の人工知能技術の限界や展開に触れながら[7]、実世界人工知能の構成という視点から見てくる、言語観を共有することを目指す。

全体シンポジウム Plenary Symposium

8月11日 13:10-16:30

外国語教育の周辺技術と今後の可能性

トピック 1:機械翻訳	山田 優(立教大学)
トピック 2:自動採点	近藤 悠介(早稲田大学)
	石井 雄隆(千葉大学・理化学研究所)
トピック 3:VR	矢野 浩二郎(大阪工業大学)
ラップアップ	谷口 忠大(立命館大学)

2022年度LET大会のシンポジウムでは外国語教育から一歩外に出たところに何があるのか、どのような研究が行われているのかという大会テーマのもと、3つのトピックを用意しました。それぞれ40分ずつ発表していただき、発表中にもZoomのチャット欄に質問等を書き込んでいただきますが、ラップアップとしてAI研究者からそれぞれに対してコメントをいただいた後、ブレイクアウトセッションを利用して登壇者との議論や交流を深める時間を30分程度設けます。

研究発表・実践報告 Oral Presentations

8月10日 10:20-15:10

Zoom 1 司会:佐藤 健(東京農工大学)・川口 勇作(愛知学院大学)

- p.44 10:20-10:50 効果的で楽しい語彙学習方法を考える方略トレーニングの実践
山本 大貴(信州大学)
- p.46 11:00-11:30 辞書検索行動の質的分析 2: 英語力との関係
小山 敏子(大阪大谷大学)
- キャピタル 11:40-12:10 読解、語彙知識、統語的知識、聴解の関係
今村 一博(武庫川女子大学)
- 13:10-13:40 Effects of Automated Feedback on Student Acquisition of Different Types of Vocabulary
SPRING, Ryan (Tohoku University)
TAKEDA, Jessica (Tohoku University)
- 13:50-14:20 Argumentative Signal Words as a Potential Predictor of Human Rating
SPRING, Ryan (Tohoku University)
- 14:30-15:00 海外メディアの動画から深める4技能の統合的学習レベル別・教養英語コースブックの紹介
竹内 理(関西大学:シリーズ編者)

Zoom 2 司会:今野 勝幸(龍谷大学)・本沢 彩(関東学院大学)

- 10:20-10:50 メタバースを利用した外国語学習
李 相穆(九州大学)
- 11:00-11:30 Teaching in the Metaverse: A Preliminary Study on Educators' Perspectives
Wilson Nicholas J. (AtoZ)
Alizadeh Mehrasa (The International Professional University of Technology in Osaka)
- 11:40-12:10 バーチャル空間における直接法の発展—中国語教育を事例として—
華 金玲(慶應義塾大学)
- 13:10-13:40 Comparative Study of ZOOM and VR Lessons in Language Education
Obari, Hiroyuki (Aoyama Gakuin University)
- 13:50-14:20 同期型オンライン国際協働型学習(COIL)の実践—二週連続の米国二大学との交流—
安西 弥生(青山学院大学)
- 14:30-15:00 遠隔と対面ではどちらの英語授業タイプを大学生は好むのか? 質問紙による学生の意識調査をもとにした調査研究
若本 夏美(同志社女子大学)
今井 由美子(同志社女子大学)
佐伯 林規江(同志社女子大学)

Zoom 3 司会:高橋 美由紀(愛知教育大学 名誉教授)・松原 緑(名古屋大学)

- 10:20-10:50 学習者音声に対する音素・単語を単位とした明瞭度自動予測
～シャドーイングを用いた評価者の聞き淀みの計測とモデル化～
峯松 信明(東京大学)
中西 のりこ(神戸学院大学)
- 11:00-11:30 シャドーイングと音声認識アプリを用いた可視化が日本人大学生の発音の理解のしやすさに与える影響
新本 庄悟(京都産業大学)
- 11:40-12:10 シャドーイング練習の位置づけの違いが英語学習者発話のモデル音声への近さに与える影響
山内 豊(創価大学)
峯松 信明(東京大学)
西川 恵(東海大学)
- 13:10-13:40 TOEIC® 公式eラーニング 基礎編 Listening & Reading の開発と学習効果
湯舟 英一(東洋大学)
保住 美貴(一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会)
谷向 桂子(一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会)
- 13:50-14:20 サブスクリプション・サービスを用いた英語授業の可能性—Disney+のザ・シンプソンズを教材にして—
木村 修平(立命館大学)
- 14:30-15:00 Laying the Foundation in a STEM Department: A Proposed Framework for English Presentations
KAWANO, Madoka (Meiji University)
ELWOOD, James (Meiji University)
FUKUCHI, Kentaro (Meiji University)

Zoom 4 司会:淡路 佳昌(大東文化大学)・田上 優子(福岡女子大学)

- 10:20-10:50 全国学力・学習状況調査の出題英文における文法項目の出現頻度:中学校学習指導要領「文、文構造及び文法事項」を視座に
高橋 昌由(大阪成蹊大学)
- 11:00-11:30 オンライン授業による明示的文法指導の英語動詞習得における効果
奥田 阿子(長崎大学)
隈上 麻衣(長崎大学)

- 11:40-12:10 機械翻訳を援用した和文生成の学びに関する調査
－英文生成能力の向上を志向して－
辻 香代(大阪公立大学)
岡本 吉世(大阪公立大学)
- 13:10-13:40 英語母音表記の多様性
河内山 真理(関西国際大学)
有本 純(関西国際大学)
- 13:50-14:20 自治体独自の外国語教育カリキュラム政策:構造改革特区を事例として
酒井 秀翔(東京大学 大学院生)
- 14:30-15:00 英語ライティング授業における協調学習
青木 千加子(北海学園大学)

Zoom 1 司会: 鬼頭 和也(城西大学)

- 11:00-11:30 Chatbot Usability for Conversation Practice in EFL Classroom
Kovalyova, Angelina (Tsukuba University)
- 11:40-12:10 The Role of Explicit Knowledge and Cognitive Styles in L2 General Proficiency
SATORI, Miki (Nagoya University of Foreign Studies)

Zoom 2 司会: 下山 幸成(東洋学園大学)

- 11:00-11:30 専門性が高まる薬学部のオンライン留学プログラムにおける教員のオンライン引率の
実践
近藤 雪絵(立命館大学)
- 11:40-12:10 通常授業における COIL の実践方法、および国際協働学習による日本人学習者の学び
に関する考察と示唆
布施 邦子(大阪公立大学)
ウォレスタッド 千鶴子(大阪公立大学)

Zoom 3 司会: 柴田 里実(常葉大学)

- 11:00-11:30 Japanese University Students' Change in English Learning Motivation Over Four Years
KOBAYASHI, Chiho (Tenri University)
- 11:40-12:10 日本語版 L2 Grit 尺度の改訂および質問紙調査: 英語力との関係から
山中 由香(近畿大学 非常勤講師)
古屋 あい子(東洋大学)

Zoom 4 司会: 古村 由美子(名古屋外国語大学)

- 11:00-11:30 プラニングとトピック・タイプが日本人英語学習者のオンライン実験におけるスピーキ
ング・パフォーマンスに与える影響について
広瀬 八重子(名古屋大学 大学院生)
- 11:40-12:10 小中接続をめざした「話すこと [発表]」における児童の姿 —教科書を発展させた協
働学習による英語パフォーマンス課題の取組から—
森本 敦子(高野山大学)
黒川 愛子(帝塚山大学)

第1日 8月9日(火)/Day 1: Tuesday, August 9th

- 09:30~11:30 ワークショップⅠ
12:00~14:00 ワークショップⅡ
14:30~16:30 ワークショップⅢ

第2日 8月10日(水)/Day 2: Wednesday, August 10th

- 10:00-10:20 開会行事 Opening Ceremony
司会: 菅井 康祐(大会実行委員長, 近畿大学)
挨拶: 森田 彰(外国語教育メディア学会会長, 早稲田大学)
- 10:20-15:00 研究発表・実践報告 Oral Presentations
- 15:10-16:00 基調講演1 Keynote Speech 1
演題: 激変する世界と英語教育
講師: トム・ガリー / Tom Gally(東京大学)
司会: 水本 篤(関西大学)
- 16:05-18:00 懇親会(交流スペース) Online Virtual Reception

第3日 8月11日(木)/Day 3: Thursday, August 11th

- 10:00-10:50 基調講演2 Keynote Speech 2
演題: 記号創発ロボティクスとマルチモーダル感覚情報に基づく言語獲得
~実世界人工知能に学ぶ言葉の意味の構成的理解~
講師: 谷口 忠大(立命館大学)
司会: 木村 修平(立命館大学)
- 11:00-12:10 研究発表・実践報告 Oral Presentations
- 13:10-16:30 全体シンポジウム Plenary Symposium
テーマ: 外国語教育の周辺技術と今後の可能性
トピック1: 機械翻訳 山田 優(立教大学)
トピック2: 自動採点 近藤 悠介(早稲田大学)・
石井 雄隆(千葉大学・理化学研究所)
トピック3: VR 矢野 浩二郎(大阪工業大学)
ラップアップ 谷口 忠大(立命館大学)
ブレイクアウトセッション(トピックごとに分かれ登壇者との自由なディスカッション)
司会: 神谷 健一(大阪工業大学)
- 16:30-16:40 閉会行事 Closing Ceremony
司会: 名部井 敏代(大会会長, 外国語教育メディア学会関西支部長, 関西大学)
挨拶: 下山 幸成(外国語教育メディア学会関東支部長, 東洋学園大学)

A室

ベイズ統計超入門

Bayesian Statistics: A Primer

竹内 理(関西大学)

湯浅 麻里子(関西大学大学院)

「論文などを読んでいると、最近、ベイズ統計という言葉をよく目にするようになった。でも、なんだか難しそうだし、入門書を読んでもよく分からないし、困ったな。」このWSは、そんな方への超入門講座です。ベイズ統計の基本的な考え方はどんなものか、なぜこの手法が着目されるようになったのか、実際の分析手順はどのようなものか。このあたりをサラッと学んで、アレルギー反応を緩和することを目的とします。担当するのは、『外国語教育研究ハンドブック』(松柏社)の編者で、難しいことをいかに簡単に説明するかに情熱をかけている竹内と、修士論文で実際にベイズ統計を利用して辛酸をなめた湯浅です。よろしくお願ひします。

B室

Handwriting としての英語の文字指導のあり方

松井 孝志(英語講師)

小学校の英語教科化で従来型の「文字指導」は開始こそ早くなったが、その指導体系、教科書や教材での「文字そのもの」の扱いには依然として課題が多い。今回のワークショップでは、教室での handwriting に焦点を当て、児童生徒が「目にする文字・読む文字」と「実際に書く文字」の適切な扱いを考えたい。

A室

教材テキストの「精読」で組み立てる英語授業

藤永 史尚(近畿大学)

「精読」を「テキストを最大限に理解するために注意深く丁寧に読むこと」(Aebersold & Field, 1997)と捉え、教室で学習者に教材英文を繰り返し多角的に読ませる仕掛けとその考え方を紹介します。他技能との統合的な指導についても触れながら、リーディングを軸にした英語授業の作り方を検討します。

B室

英文音読における、イントネーションの基本的選択肢

久保 岳夫(開成学園)

外国語として英語を音声化する際に気をつけたい基本的な考え方について、英国式イントネーション分析に基づいた具体例をご紹介しながらお話しします。イントネーションは理解が難しいと感じられることも多いようですが、単語・句レベルの引用形の発話から、気心の知れた知人同士のはやい発話まで、基本的な考え方は共通しています。知られていないことも多いので、できるだけわかりやすい形で多くの例を通してお示しできたらと思います。

A室

探究時代の語学教育—電語研が見据える新たな4技能とは—

木村 修平(立命館大学)

近藤 雪絵(立命館大学)

2022年度から高校で本格的に始まる探究型学習。電子語学教材開発研究部会(電語研)ではこれまでに開催してきた研究会から、探究型学習が標準となる時代の語学教育の可能性を見出してきました。今回のワークショップでは、電語研が見出す新たな4技能を「調べる」「まとめる」「コラボレーションする」「発信する」として整理し、それぞれに結びつくICTサービスやアプリ、授業での活用法、授業案を提案します。

B室

タスクのマイクロ評価から考える実践研究

藤田 卓郎(福井工業高等専門学校)

教師が主体となって行う実践研究について話したいと思います。前半は、実践研究を行う意義や考え方、進め方について学術研究や実践報告と比較しながら考えたいと思います。後半は、実践研究の方法の1つとして、タスクのマイクロ評価(micro-evaluation)を紹介します。そして、マイクロ評価の考え方をもとに実践研究を進めていく方法について一緒に考えていきたいと思います。

出展賛助会員一覧

一般社団法人 Global8

ETS Japan

株式会社 アルクエデュケーション

株式会社 内田洋行

株式会社 EdulinX

株式会社 桐原書店

株式会社 三修社

株式会社 松柏社

株式会社 成美堂

チエル株式会社

(50音順)

大会事務局からのお知らせ

大会への参加方法

発表者も含め大会に参加するには事前の登録が必要です。大会ホームページ(<https://www.j-let.org/let2022/>)より7月31日(日)までに参加登録を済ませてください。

<大会参加費>

LET 会員:2,000 円(学生:1,000 円)

非会員:3,000 円(学生:1,500 円)

ワークショップ参加費:無料

- ・ 支払い方法はクレジットカードもしくは銀行振り込みとなります。
- ・ 領収書は参加登録が完了した後、ホームページ上で発行しますので、ご自身で印刷してご利用ください。
- ・ 参加登録後の返金には応じることはできません。
- ・ ワークショップに参加するためには大会への参加登録が必要となります。
- ・ ワークショップの参加申込後の変更はできません。

参加依頼状

参加依頼状が必要な方は、大会 2 週間前までに大会事務局に文書でお申し込みください(送り先は大会ホームページに掲載しています)。その際、宛名を書き、切手を貼った返信用封筒を同封してください。なお、書式の指定がある場合は併せてお送りください。

Zoom 利用に当たっての注意事項

すべてのセッションを Zoom で行います。参加する前に以下の注意事項を必ず読んでください。

1. 受信映像の保存(画面キャプチャを含む)、及び録画・録音は禁止します。
2. 各 Zoom 会議に参加するための URL は大会事務局より参加者に直接連絡いたします。
3. 参加する際には Zoom アプリの更新をして最新版にしてください。
4. 表示名を「氏名(所属)」としてください。
5. マイクとビデオの設定をオフにして参加してください。(マイクは「ミュート」、カメラは「ビデオの停止」)
6. 質疑応答は、以下のように行います。

【音声による質問】

- ① 質問希望者は「手を挙げる」機能を使い、司会者からの氏名を待ちます。
(Zoom ミーティングの場合には、「リアクション」ボタンをクリックして「手を挙げる」をクリックします。)
- ② 司会者が音声で質問者を指名します。(講演・シンポジウムの場合、その後、ホストが指名された質問者の「トークを許可」します。)
- ③ 指名された質問者はマイクをオンにして発言してください。(研究発表・実践報告の場合には、質問者はビデオもオンにできます。ビデオオンの場合、背景にプライバシーや人権侵害につながるものが映り込まないように注意してください。)

【テキストによる質問】

- ① 画面下の「Q&A」をクリックします。
- ② 質問を入力して送信します。
- ③ 発表者がテキストあるいは音声にて回答します。

なお、時間の関係上、寄せられた質問などに対して、発表者から回答をいただけない可能性がありますのでご了承ください。

会員交流スペース(oVice)について

アバターを利用して会員相互の交流を図るために設置された仮想空間です。8月9日から11日の大会期間中ご利用いただけます。また、LET 会員以外の方もご参加いただけます。詳細については大会事務局より送付される情報をご確認ください。

<会員交流スペース (oVice) の全体像>



外国語教育メディア学会(LET) 第61回全国研究大会実行委員会

大会会長	名部井 敏代(関西大学)
大会実行委員長	菅井 康祐(近畿大学)
事務局	神谷 健一(大阪工業大学:総務・企画) 木村 修平(立命館大学:web・広報) 水本 篤(関西大学:プログラム) 大和 知史(神戸大学:本部連携)
実行委員	
会計	近藤 睦美(京都外国語大学) 山内 優佳(広島大学)
プログラム・要項集	鬼田 崇作(同志社大学) 今尾 康裕(大阪大学) 田村 祐(関西大学) 新本 庄悟(京都産業大学)
広報	近藤 雪絵(立命館大学)
業者	中西 正樹(摂南大学) 大澤 真也(広島修道大学) 金丸 敏幸(京都大学) 森田 光宏(広島市立大学)
記録	今井 由美子(同志社女子大学) 金澤 佑(関西学院大学) 橋本 健一(大阪教育大学) 濱田 真由(神戸大学) 布施 邦子(大阪公立大学) 眞崎 克彦(神戸親和女子大学) 山岡 浩一(姫路獨協大学) 山本 勝巳(流通科学大学)

贊助會員廣告

「英語を学ぶ」から「英語で学ぶ」へ Reallyenglish Virtual Live Training



Reallyenglish Virtual Live Training (VLT) は、オンライン会議ツールZoomを活用したプロのネイティブ講師による、双方向性のオンラインライブレッスンです。

英語コミュニケーション力の向上はもちろん、「英語で学ぶ」力を身に付けることができます。



A1～C1まであらゆるレベルと研修目的に対応した多彩なコースから選べる



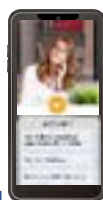
経験豊富なネイティブ講師による個別フィードバック



ニーズに合わせて、独自のハイブリッドコース設計も可能



自習用eラーニングと魅力的なアクティビティが豊富なオンライン教材を提供



オンライン
ライブ
レッスン

事前
eラーニング
予習



専用ツール
(予約管理)

レッスンタイトル例

A1レベル

I'm... You're...
At the mall
Are you ready to order?
What did you do on Saturday?
他

A2レベル

Tell me about you
A good place to live
Making excuses
Food I love 他

EAP (B1～)

Intercultural Communication
Critical Thinking
English for Academic Writing
English for STEM
Discussion and Debate

【講座概要】

事前eラーニング+オンラインライブレッスン (15回、20回、30回から選択可能)
アセスメントテスト、事前eラーニングレッスンデータ (PDF、一部コースのみ)
ポッドキャスト、オンラインライブレッスン専用教材

【サポート】 オンライン文法参考書、英語フォーラム

【学習単位】 eラーニングレッスン：30-45分、VLTレッスン：50分

講座レベル	CEFR A1～C1相当、グループごとに個別調整可能
オンラインライブレッスン 受講回数	標準15回 (EAP12回) ～、ご予算に合わせて応相談
価格	営業担当にお問合せ下さい



先行事例のご紹介

豊橋技術科学大学様



Reallyenglishラインアップ詳細は
こちらから！

<https://www.reallyenglish.co.jp/courses>

株式会社EdulinX

MAIL : academic@reallyenglish.jp (学校営業部)
TEL : 03-3348-2031 (東京本社) / 06-6147-3997 (関西支社)

2001年設立当初より質の高いコンテンツと教授法にこだわりeラーニング及びシステムを開発。すでに1270以上の組織に導入を頂いています。



LET 関西支部 2022 年度春季研究大会

当法人は、英語並びに日本語等の CBT 型コミュニケーション力測定テスト「OPIc」を主に教育現場に現状把握・教育効果測定を主たる目的として提供して参りました。

「OPIc」の概要並びにその適用事例につき LET 第 60 回全国研究大会において以下のような内容で 20 分の動画配信をさせて頂きました。

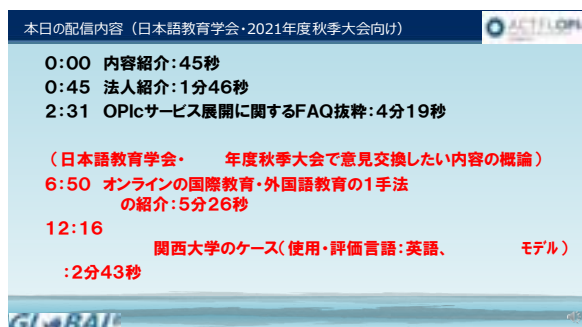
<https://www.youtube.com/watch?v=Dv6JIIsaVRIA>



(抄録) http://global8.or.jp/LET60_abstract.pdf

今回の LET 関西支部 2022 年度春季研究大会では、地元関西大学が文部科学省「平成 30 年度『大学の世界展開力強化事業』～COIL 型教育を活用した米国等との大学間交流形成支援～」のタイプ B:交流推進・プラットフォーム構築プログラムを推進された結果、参加大学も多くなっており、OPIc 活用による「つながり」を増やしたいと思い参加します。

大会当日の PR 動画配信は時間の関係で、OPIc サービス紹介（一般）部分の配信となりますが、COIL 型教育の紹介や日本語教育・学習に関して OPIc 適用も含め、昨年 11 月日本語教育学会・2021 年度秋季大会で以下のような内容で 15 分の事前動画配信を行い、それを踏まえた議論を実施させて頂きました。 <https://youtu.be/RoKlIr5hrjE>



是非事例部分にアクセス頂きサービス適用方法につき LET 関係者と OPIc の実地評価・意見交換を致したく adm@global8.or.jp にて問合せお待ちしております。



Complete Communication Book 1
-Basic- 定価 2,530 円(本体 2,300 円+税 10%)

Complete Communication Book 2
-Intermediate- 定価 2,530 円(本体 2,300 円+税 10%)

Live Escalate Book 3: Summit
..... 定価 2,750 円(本体 2,500 円+税 10%)

Reading Palette Red -Basic-
..... 定価 2,090 円(本体 1,900 円+税 10%)

Reading Palette Green -Pre-Intermediate-
..... 定価 2,090 円(本体 1,900 円+税 10%)

Science Stream..... 定価 2,090 円(本体 1,900 円+税 10%)

Strategic Reading for Global Information
..... 定価 2,090 円(本体 1,900 円+税 10%)

Global Pathways..... 定価 2,090 円(本体 1,900 円+税 10%)

Good Grammar, Better Communication
..... 定価 2,090 円(本体 1,900 円+税 10%)

AFP World News Report 6
..... 定価 2,750 円(本体 2,500 円+税 10%)

Meet the World 2022 -English through Newspapers-
..... 定価 2,200 円(本体 2,000 円+税 10%)

**A COMMUNICATIVE APPROACH TO THE TOEIC®
L&R TEST Book 1: Elementary**
..... 定価 2,420 円(本体 2,200 円+税 10%)

**BEST PRACTICE FOR THE TOEIC® L&R TEST
-Intermediate-** 定価 2,750 円(本体 2,500 円+税 10%)

Understanding the World Today
..... 定価 2,090 円(本体 1,900 円+税 10%)

Globalization: The Future of Japan and the World .
..... 定価 1,760 円(本体 1,600 円+税 10%)

株式会社 **成美堂**  **SEIBIDO**

●書籍の情報はホームページでもご覧になれます。

URL: <https://www.seibido.co.jp> e-mail: seibido@seibido.co.jp

IDP Education
(IELTS テスト実施団体)

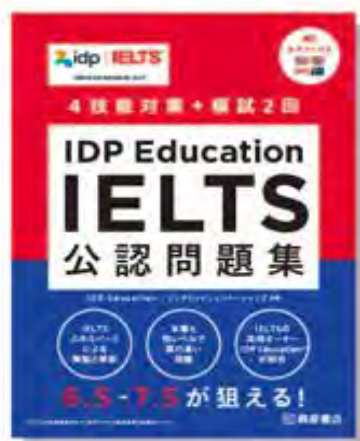


English Innovations
(英語資格試験スコアアップに定評のある専門校)

が協力して制作した **日本初の公認問題集!**

IDP Education IELTS 公認問題集

2022年2月初旬刊行



本書の特徴

- 1 IELTSを知り尽くしたエキスパートによるわかりやすい解説と解答
- 2 試験本番と同レベルで質の高い問題
- 3 練習→実践→模試(2回)で苦手を克服し、得意を伸ばす!
- 4 無料学習アプリ **リスニングプラクティス** でリスニング強化

音声DL付き

4技能対策
+
模試2回

無料音声ダウンロードアプリ
LISTENING PRACTICE
リスニングプラクティス

商品に関するお問い合わせ先

株式会社 桐原書店 オンライン学習事業部 営業企画部

URL : www.kirihara.co.jp TEL: 03-5302-7036 FAX: 03-5302-7032

IDP Education IELTS公認問題集が刊行されました。

IELTS共同オーナー及び試験実施主体であるIDP Education と英語資格試験スコアアップに定評のある専門校イングリッシュイノベーションズが協力して作成したIELTS公認問題集です。

全国の書店様で発売中です。

B5変型 / 頁数B5変型 / 400頁 (本冊240頁 / 別冊160頁) ISBN 978-4-342-00219-9

刊行日 2022年2月10日

<https://kirihara.co.jp/product/detail/002199/>

三修社 書籍ご案内



AI 翻訳で英語コミュニケーション

Let's Work with AI!—Machine Translation as a Tool for Discussion

- 幸重 美津子／篤田 和美／西山幹枝／Tom Gally 著
- B5判／並製 (96頁) ISBN978-4-384-33508-8
定価 1,980円 (税込)

機械翻訳を使用した新しい学習法を提示、英語の質と量を向上させて発信へつなげる。どのような日本語を入力すれば適切な翻訳結果が得られるのか、コツを掴むことができます。実践的なコミュニケーション力の向上を図ります。期末テスト付き。

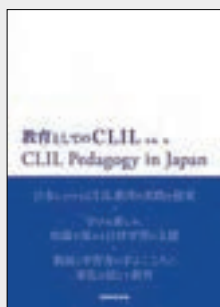


タスクで教室から世界へ [ブック1]

Getting Things Done [Book 1]

- ポール・ウィギン／田村 祐 編著
加藤 由崇／小林 真実／松村 昌紀／横山 友里 著
- A4判／並製 (96頁) ISBN978-4-384-33510-1
定価 1,870円 (税込)

『コミュニケーション・タスクのアイデアとマテリアル』の理論とアイデアに基づいて構成された学生用教科書。語彙や表現、文法事項などを主体的に学ぶことができるよう、工夫を凝らしました。



教育としての CLIL

- 笹島 茂 著
- A5判／並製 (304頁) ISBN978-4-384-05929-8
定価 3,520円 (税込) 電子書籍版あり

ヨーロッパで始まった CLIL の背景、歴史、実践、国ごとの導入の状況、今後の見通しなどを概観した上で、ヨーロッパとは異なる部分を整理し、日本における CLIL 教育の 6 つの基本理念を提案する。



コミュニケーション・タスクのアイデアとマテリアル

教室と世界をつなぐ英語授業のために

- 加藤 由崇／松村 昌紀／ポール・ウィギン 編著
横山 友里／田村 祐／小林 真実 著
- A5判／並製 (264頁) ISBN978-4-384-05940-3
定価 3,080円 (税込)

タスクに基づく言語指導 (TBLT) における研究知見をふまえて開発された教材集。情報伝達・情報合成・ナレーション・問題解決・意思決定のタスク・タイプにわけて、豊富な実例を示しています。

小社ホームページより教科書の内容見本 (1 課分) および音声サンプルをご確認いただけます。
英語・ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・日本語・その他多数言語出版しております。



三修社

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 2-2-22
TEL 03-3405-4511 FAX 03-3405-4522
<https://www.sanshusha.co.jp/text/>
email: text@sanshusha.co.jp

授業運営に必要な機能と、先生にやさしい操作性で
PC 学習も、スマホ学習も一元管理。

英語4技能の
学習支援

4技能に対応した
学習支援機能が充実。

導入コスト
運用負荷の低減

導入コスト・運用負荷を
抑えます。

学習履歴を
一元管理

PCもスマホも！
学習した内容を一元管理。



英語 4 技能 学習 に 特 化 し た ク ラ ウ ド 型 の M A L L シ ス テ ム

MALL とは、“Mobile Assisted Language Learning” の略。ノート PC やスマホなど可搬性のあるモバイル端末を利用した語学学習を指します。

英語4技能の学習に対応した豊富なアクティビティ

豊富な教材も搭載!

学習履歴を一元管理



音声速度や音量の調整、A-Bリピート
などリスニングに便利な機能を搭載。



リスニング

シャドーイング

ディクテーション



シャドーイングや読み上げ音声録音など。
音声認識により、一部のアクティビティで
自動採点を実現。



シャドーイング

レコーディング



リーディングの補助として、単語の早引
きや「My単語帳」への登録、習得済み単
語の色分けが可能。



リーディング

英文要約

語彙クイズ



ディクテーションでは聞き取った英文を
書き取り、その内容の自動採点を実現。



ディクテーション



4 技能別、学習者別、
クラス全体の集約など細かい単位で
履歴を参照可能です。





大学・高校でのライティング指導を効率化

効率化 3 つのポイント

1

わずか 5 秒^{*}で自動評価

Criterion[®] では、独自に開発された「e-rater[®]」と呼ばれるプログラムがエッセイを数秒で評価し、6 段階のスコアと詳細なフィードバックを提供します。瞬時に評価が示されることで学習者の気づきや自発的な書き直しを促します。

- ✓ Score
- ✓ Trait Feedback
- ✓ Diagnostic Feedback

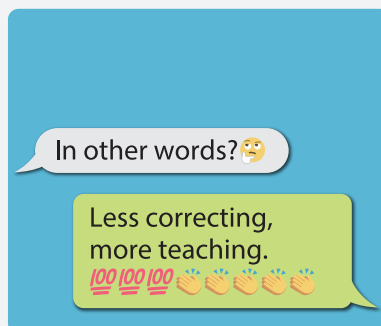
in **5** Seconds

* 接続環境等により 5 秒以上かかることがあります。

2

添削の苦労を軽減

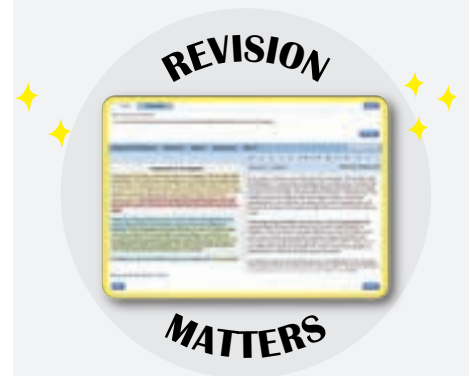
Criterion[®] がエッセイのフィードバックを提供することで、これまで文法等の添削にかけていた時間を削減できます。それにより、教員はより「内容」の指導に時間を使えるようになります。



3

「書き直し」で実力アップ

Criterion[®] は、学習者が「書き直し」をすることによってライティング力を向上させるようにデザインされています。「リバイズ機能」が Criterion 活用のポイントです。



フリートライアル/各種資料ダウンロード/導入事例 など
ETS Japan 公式 Criterion Webサイト
<https://www.etsjapan.jp/criterion>



動画: Criterion Instructorの使い方#1
<https://youtu.be/BpYwvHM9Wv8>



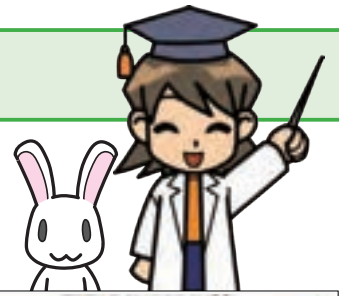
公式Twitterアカウント
[@criterionjp](https://twitter.com/criterionjp)

ETS, the ETS logo and CRITERION are registered trademarks of ETS, used in Japan under license. Copyright © 2021 by ETS Japan. All rights reserved.

英語 e-Learning システム

ATR CALL BRIX

ATR CALL BRIX
ATR Computer Assisted Language Learning System



4技能をバランスよく学習できるカリキュラムで、基礎力を養います。

オススメコース

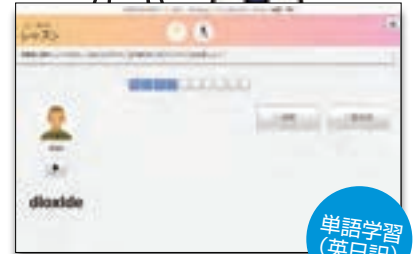
≫ TOEIC® L&R テスト トレーニングコース

- 2016年5月に改訂された新形式に対応した問題を収録しています。
- TOEIC® テスト形式以外の教材も豊富で、基礎力をつけながらスコアアップを目指せます。

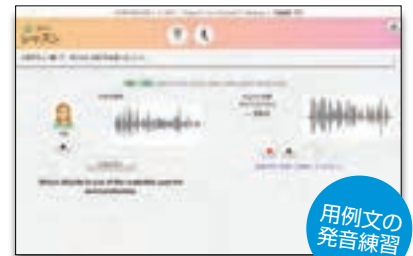
≫ 理工系学生のための英語力強化コース

- 書籍のパートにあわせたカリキュラムです。
- 単語や用例文の発音練習もできます。

COCET3300 対応!



単語学習 (英日訳)



用例文の発音練習

全ての課題をスマホ・タブレットで学習できます

無料の専用アプリダウンロードはこちらから



Android



iOS

ATR CALL BRIXは、ATRにおける約30年の研究成果から誕生したe-ラーニングシステムです。

ATR

Advanced
Telecommunications
Research
Institute
International



株式会社 国際電気通信基礎技術研究所 (ATR)

電気通信分野における基礎的・独創的研究の一大拠点として、産・学・官の幅広い支援を得て1986年に設立されました。3年後にけいはんな学研都市(京都府)に移って以来、けいはんなの中核研究機関としての役割を果たし、その最先端の研究内容と優れた研究成果により、世界的な評価を受けています。

TOEIC is a registered trademark of Educational Testing Service (ETS).
This product is not endorsed or approved by ETS.

学修空間

アクティブ・ラーニングに最適 FutureClassRoom®

双方向授業や主体的な学び(アクティブ・ラーニング)を支援する教室

近年、一方的に話を聞くレクチャー型の授業だけではなく、グループワークやプレゼンテーションなど学生が主体的に学ぶ「アクティブ・ラーニング」が増えています。この「アクティブ・ラーニング」では、それぞれのシーンごとに空間を自由に変えることができる教室が求められます。

フューチャークラスルーム®では、「アクティブ・ラーニング」環境のご提案だけでなく、実際の授業を実践・体験していただくことも可能です。是非、アクティブな学修空間をご体感ください。



TOKYO



OSAKA

「フューチャークラスルーム®」は、学校関係者や企業・研究機関と一緒に新しい授業スタイルの研究開発・実証実験を行える場所として、新川本社ビル(東京都中央区)と大阪支店(大阪府大阪市)に設置しております。ぜひ、ご来館ください。(ご見学は事前予約制です)



@Shohakusha

www.shohakusha.com

SDGs and Global Issues

山本五郎 / Jonathan D. Brown



Online Video

Global Perspectives in the English-speaking World: Past and Present

JA Kusaka / Jesse Elam / Dax Thomas

New

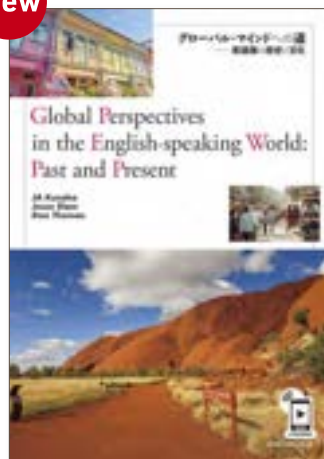


2030 年までに持続可能でよりよい世界を目指す SDGs の国際目標の中から、日本では実感しにくい問題や学ぶ機会の少ない問題を取り上げ、リーディングと 2 分～3 分の動画によるリスニング、語彙強化に簡単な会話学習まであり、学生の関心を高める構成。

15 章 96 ページ
本体 2,200 円+税
978-4-88198-773-5

授業支援ツール ・ 語彙リスト
・ 単語テスト

New



英語圏の文化を教えるためのコンテンツベースのアプローチの必要性から、よく知られた英語圏をカバーしつつ、ヨーロッパ、アフリカ、オセアニア、アジア、北アメリカの英語圏各国を収録。学生の世界観を広げ、英語のみならず、文化的認識と異文化理解能力を身につけることができる一冊。

15 章 133 ページ
本体 2,000 円+税
978-4-88198-776-6

授業支援ツール ・ TOEFL-style テスト

Creative Ideas for Products & Services

Pick up



神田範明 著
新原由希恵・竹内 理 編著
アレクサンダー・ファレル文

身近な商品・サービス開発の経緯を綿密な取材によって紹介。経営学者・神田範明氏と小社担当編集による、約一年にわたる綿密な取材をもとに、社史をはじめ商品に関する新鮮なエピソードを収録。未曾有の時代に必読の経営学者 × 応用言語学者のコラボテキスト。

協力企業 (章順)

森永製菓	叶匠壽庵	岩崎
日比谷花壇	小林製菓	カモ井加工紙
ホーユー	高峰楽器製作所	積水化学工業
ジャパンプルー	石屋製菓	
五藤光学研究所	ジャストシステム	以上 13 社

15 章 80 ページ 本体 2,000 円+税
978-4-88198-772-8

授業支援ツール ・ 単語テスト

こちらのテキストもクラスに
合わせてお使いいただけます

Pick up

Exploring Landscapes of Culture & Communication

JA Kusaka / Michael Ruddick /
Simon Pryor

15 章 106 ページ
本体 1,900 円+税
978-4-88198-739-1

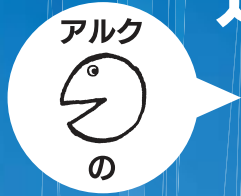
授業支援ツール ・ TOEFL-style テスト



2022 年度新刊英語教科書情報も 小社ホームページでご覧ください

会員登録をしていただきますと、ご採用の際に小テストデータ等、**授業支援ツール** のダウンロードが簡単になります。ぜひご利用ください。

【Online Video 教材】映像メディアで学ぶ SDGs
【英語圏文化】グローバル・マインドへの道：英語圏の歴史と文化
【アメリカ文化】米国の今：文化・社会・歴史
【イギリス文化】英国の今：文化・社会・歴史
【初級英語】初級英語：リスニング&英文法
【TOEIC®LR 対策】TOEIC® L&R テストパート別トレーニング
【通訳入門】授業で学ぶ「通訳」入門：ボーダレスな世界を目指して



進化する語学教育現場を 6つのアプローチで サポートします!

学生が授業時間外に
勉強をしない

予算が無い

学生の英語力
の差が激しい

グローバル化社会、情報化社会に対応するための教育改革が急務となる中、
次々と浮かび上がってくるキーワード。
私たちアルクは、長年培った経験や実績を生かし
英語教育の現場で奮闘する先生方を応援します。

ネイティブの先生も
使える教材が欲しい

TOEIC®テスト/TOEFL®
テスト対策をしたい

CEFR 準拠の
教材が欲しい

トータルソリューションならアルク。

2.アルクのeラーニングシステム

ALC NetAcademy NEXT

延べ 100 万人以上が受講した ALC NetAcademy
シリーズの最新版

シリーズ導入教育機関数 延べ約 620 校
企業数 延べ約 480 社

特
徴

分かりやすいレベル設定

モバイル対応でどこでも学習

学習の進捗が一目瞭然

6技能を習得、テストで定着度を確認

アルクのコンテンツが学習素材

全 12 コース

- 総合英語トレーニング 初級コース
- 総合英語トレーニング 中級コース
- 総合英語トレーニング 上級コース
- TOEIC®L&R テスト突破コース
(500 点・600 点・730 点)
- TOEFL ITP® テスト攻略コース
- 基礎からの英文法トレーニングコース
- 医学・医療英語コース
- PowerWords Hybrid コース
- 英単語パワーアップコース
(TOEIC® テスト、TOEFL® テスト、
理工、医学・医療)

1.書籍・教材開発

- 書籍: 累計490万部を突破した「キクタン」シリーズをはじめ、
TOEIC®テスト・TOEFL®テスト対策書籍から専門英語書籍
まで充実のラインナップ
- 通信講座:「ヒアリングマラソン」は延べ120万人以上が受講

3.研修・授業

教育機関の学生や教職員、企業・団体の学習者を対象に英語コミュニケーション
力向上プログラムを提供

- FD研修
- TOEIC®対策
- コミュニケーション
- ビジネス
- SD研修
- TOEFL®対策
- ディスカッション
- 留学前研修
- 自己学習法
- 異文化コミュニケーション (他多数)

4.電話によるスピーキングテスト

TSST=英語スピーキングテスト
年間約1万人が受検

5.英語学習アドバイザー

ESAC®(イーザック)
=English Study Advisors' Certificate
学習者の自律学習をバックアップ

6.デジタルコンテンツ

- アルクオンライン英会話
- アルクオンライン日本語スクール
- 英辞郎 on the WEB Pro
- 各種アプリケーション

株式会社アルクエデュケーション 文教営業部

e-mail: academy@alc.co.jp

https://www.alc-education.co.jp/academic/



地球人ネットワークを創る